

**乙訓圏域障がい者自立支援協議会**  
**令和7年度 第5回「医療的ケア」委員会 会議録**

**日 時** 令和8年1月22日（木）13：30～15：00

**場 所** 乙訓保健所 2階講堂（Zoom 開催あり）

**会場出席者** 14名

乙訓ひまわり園、向日市社協障がい者地域生活支援センター、乙訓ポニーの学校、乙訓障害者支援事業所連絡協議会、乙訓福祉会、乙訓訪問看護ステーション連絡会、京都府立向日が丘支援学校、乙訓の障害者福祉を進める連絡会（3）、乙訓保健所保健課、向日市障がい者支援課、長岡京市障がい福祉課  
オブザーバー 京都府済生会訪問看護ステーション

**Zoom 参加** 4名

乙訓歯科医師会、京都府歯科衛生士会、乙訓の障害者福祉を進める連絡会（1）、大山崎町福祉課

**欠席者** 2名 乙訓医師会、京都済生会病院

**事務局** 3名（内1名 Zoom 参加）

**傍聴者** 0名

**配布資料・次第**

- ・「医療的ケア」委員会からの福祉教育に関するご案内（案）
- ・令和7年度「医療的ケア」委員会 活動報告（案）

**会議概要**

副委員長・オブザーバー参加の京都府済生会訪問看護ステーションのメンバーが今回より変更になっているので報告させていただく。

### 1 ワーキングチームの確認

副委員長・「人材育成・周知活動について」のところで、添付資料「「医療的ケア」委員会からの福祉教育に関するご案内（案）」を作成し事前に配布させてもらっていたが、意見等はあるだろうか。

委員 ・文字だけでなく絵など装飾があれば良いと思う。

委員 ・「医療的ケアとは？」のところで「自宅や学校など、医療機関以外の場所で、家族などが日常的に行う」と書かれているが、家族以外でもヘルパー等が喀痰吸引等研修を受けて支援すること

ができる。家族だけというイメージがつくのではなく、もっと広くできるというニュアンスにできるとより良いように思った。

委員 ・ヘルパーは経管栄養と吸引はできるが導尿や酸素療法ができない。

委員 ・「〈医療的ケアの例〉」という中に書かれていることなので、部分的にはできると受け取れるようにも思う。

委員 ・「支援者」としてはどうだろうか。

副委員長 ・「家族や支援者が日常的に行う医療的な生活支援」でどうだろうか。

委員 ・良いと思う。

委員 ・今の意見の医療的ケアは喀痰吸引等制度でできることで、この資料の中の医療的ケアはそれも含んだもっと大きな、資料上部に記載している定義にあてはまるものを例としているので、これで良いと思う。誰がするのかを省いてしまうのもひとつだと思う。医療的ケアとは日常的に生活の中で行われるものという形になっており、誰がするかはその後の課題となっている。誰がするのかを書くことで、細かい議論が出てきてややこしくなるのであれば外してしまっても良いと思う。

副委員長 ・誰がというところは削除し特定せずに、「自宅や学校など、医療機関以外の場所で日常的に行われる医療的な生活支援のことです。」という表現でどうだろうか。

委員 ・この資料を渡す対象はどういう方々だろうか。

副委員長 ・社会福祉協議会に渡して、福祉教育の依頼があった時に提案のひとつとして活用していただくものになる。

委員 ・字が多いという印象がある。先生方ならこれでも良いかと思う。資料前半に障がいの定義と社会の中にあるバリアがあることで生活がしにくい方々の問題について、配慮や理解があることで解決していくことが書かれており、後半に医療的ケアのことが書かれている。医療的ケアが前半部分の配慮や支援にあたるのが、この資料を読んだ時にそこを結びつけて理解してもらえるのが読み取りにくいように感じた。

委員 ・表と裏の両面資料にはできないのだろうか。この内容を一面だけに収めるのは厳しいように思う。両面にするともう少し見やすい資料になるように思った。

事務局 ・渡すには両面でも良いと思うが、両面だと案内しにくいかと思った。

委員 ・両面でも大丈夫だと思う。どこかに置くとすると片面の方が良いように思うが、学校からの問い合わせがあった時に活用するというのであれば両面でも良いと思う。毎年テーマが先生方の中にはあるようで、それに沿ったものがあるかという問い合わせがある。医療的ケアに絞るというよりも、大きい枠の障がいの勉強がしたいという中で医療的ケアを踏まえている方が良いのかなと思う。学校側から医療的ケアのことを勉強したいという要望は少ないように思う。学校側の希望としては障がい者のことについての勉強がしたいので何かないかというのが多い。最初の「障がいとは」のところの括りがあって、プラス医療的ケアの必要な方がいることを知ってほしいことを入れるのが良いように思う。

委員 ・資料上部の「障がい」というのは「障がいの社会モデル」と呼ばれる捉え方、医学的なものではなくて社会を調整することによって障がいがなくなるという考え方は学校教育において知ってほしいことである。表裏使えるのであれば、表に「障がいとは」という社会モデルの話を

前面に出して、裏面に「医療的ケアというものがある」という形で、体を治すというよりはより楽に生きるための配慮のひとつとして「医療的ケア」というものがあるということを表記できると、少しわかりやすくなるように思う。

事務局 ・色々な意見をいただいたので、より良いものを届けていければと思う。当初は前年度の間に案内を出せるようにした方が、先生方に案内しやすいということだった。この形で仕上げるのか、次年度に持ち越して作成していくのか、どちらが良いだろうか。

副委員長・福祉教育をされる時期があるようで、そこに間に合うようにということで今年度に作り上げておくのが良いのではということだった。年度をまたぐと社会福祉協議会に渡せるのが少し先になるかもしれないが、より良いものを作るというところでどちらが良いだろうか。

委員 ・今の意見等を含めちょっと訂正したものを今年度版として仕上げ、来年度に改善していく形で良いように思う。

委員 ・作成しても間に合わなければ意味がないと思う。内容に大きな問題があるわけではないので、今回はこれで良いと思う。

副委員長・今年度はこの形で仕上げていきたいと思う。実際に使ってみて、こうした方が良いという意見や学校側からの意見があるかもしれないので、追加してバージョンアップしていくのが良いように思う。

・次に「施設における口腔管理について」のところで、歯科のかかりつけ医について相談支援事業所連絡会で年1回の講話ができればという話が出ていた。2月3日の相談支援事業所連絡会で大橋委員が講話をしてくれる予定である。

委員 ・内容について要望があれば事前に言っていただければと思う。時間は30分で考えている。

副委員長・次に「医療的ケア児・者の生活を支えるために必要なことについて」、医療型短期入所「春風」（以下、「春風」という。）の利用状況について共有したい。

事務局 ・12月末に「春風」の利用状況を確認している。見学は2～3組あるが、以前に宿泊を一度利用された方もその後の利用はなく、新しい利用はないことを確認している。その時に地域生活支援拠点の動きと説明会の案内をしている。

副委員長・「春風」の利用がなかなか増えないところで、どうしていくのが良いのか。緊急対応のためにも少しずつでも利用が進んでいき、何かあった時の使える場所になればと思うのだが、どうしていけば利用者が増えていくのか。増やしていくために次年度はどうすれば良いのか等、意見をいただければと思う。

事務局 ・地域生活支援拠点は向陵会が拠点としてされるのだが、事業所が登録して面的整備ということで登録してもらった事業所がそれぞれの役割を担っていただくというところでは短期入所を「春風」に協力いただけることがあると思っている。次年度、地域生活支援拠点の動きを見て、情報共有しながらどんなことを協力してもらえるか進めていきたいと思う。「医療的ケア」委員会としては個別にケースをあたりながら利用していただけるよう周知していく等、意見をいただきたいと思っている。

委員 ・京都市の拠点で、私が施設からの地域移行ということで関わっている方で、一人暮らしの体験の場ということで利用されているケースがある。緊急時に備える意味合いもすごく大きいように思っている。実際に利用するとなった時にただ場があるというだけでは、なかなか使ってみよ

うとはならないと私自身も感じる場所がある。普段から慣れているヘルパーと一緒に泊まれることはすごく大事だと思う。いきなり知らないヘルパーと1泊2日過ごすとなると、介助の仕方もわからないだろうし、本人が意思疎通の難しい方であれば尚更難しく、本人もすごく不安で「入りたくない。」と感じるかもしれない。慣れた人、使いやすさというのは大切だと感じている。実際に乙訓圏域の場合は普段慣れてない方がその時は支援するイメージだろうか。

委員 ・自事業所も短期入所はやっているが外部のヘルパーに入ってもらっては制度的に全くない。おすすめしているのは日中一時を何回か利用していただき、馴染んでから短期入所を利用してもらう。今すぐ短期入所を使う予定はないが、将来使うかもしれないという方にはとりあえず日中一時をおすすめしている。ただ日中一時もいっばいで新規が難しいところはある。

委員 ・短期入所に関しては今言われた通りで、個別のヘルパーは基本的には使えない。「春風」では使えることにはなっているが、なかなか進んでいない。福祉型の短期入所は基本的に泊を伴わないと事業としては成立しない仕組みになっている。日中一時を持っている事業所は日帰りもできる。医療型短期入所は日帰りができるので「春風」では、まず日中の過ごしから入っていくことはやり方としてはできる。制度をうまく使っていくかもひとつである。地域生活支援拠点の説明会に「春風」の参加はなかったのだろうか。

事務局 ・当日の参加はなかった。

委員 ・「春風」自身が自身の短期入所を今後どうしていこうと思っているのかも大事なように思う。地域生活支援拠点の面的整備の中で、何かしらの事情で緊急的に短期入所を利用できるように調整しないといけなくなった時に、拠点の機能があることでどこまで調整の幅が広がっていくのかなと思う。今でも実際に利用しているところで、急に短期入所が必要になった時に調整はどこも既にやっている。そこに拠点がプラスされて、登録ということもあり、どれだけたくさん協力してくれる事業所が確保できるかもひとつだと思う。その中で「春風」も何かしらの役割を担ってもらえるのであれば、そちらの視点から考えていくのもあるように思う。それは「春風」側の主体性の問題だと思うので、「春風」側の考えも知りたいように思う。

事務局 ・事務局として「春風」との連絡調整を続けていかないといけないと思っている。利用に向けての案内も含めて、この委員会として利用を見守っていっていきとまとめて良いと思う。

副委員長 ・次に「医療的ケア児等コーディネーターの配置」についてお願いしたい。

事務局 ・市町の動きを確認したいと思う。乙訓福祉施設事務組合と協議中である。次年度、どのような形で圏域のコーディネーターの配置を作っていくのか、乙訓福祉施設事務組合と市町と協議を続けていく。福祉計画の中では「令和8年度に圏域として配置する。」となっているところで、次年度にはどのような形かを出すことができていると思っている。協議中というところなので、追って情報共有していければと思っている。

副委員長 ・次に「地域にかかりつけ医を」というところで、報告を事務局からお願いしたい。

事務局 ・今年度中に乙訓医師会の事務局を訪問できればと思っている。

## 2 今年度の活動報告

副委員長 ・資料「令和7年度「医療的ケア」委員会 活動報告(案)」を見ていただきたい。まずは1番と2番、3番のところで補足や意見等はあるだろうか。

事務局 ・「3 今年度の取組状況」だが「その他」という項目がある。今までは「その他」だけしか書いていなかったが、他の部会とも併せて「その他」の中で何を協議されたのかを記載することで統一している。

副委員長 ・また後からでも気づかれたことがあればメール等でお知らせいただければと思う。

・「4 今年度の活動」に移りたいと思う。「(1) 人材育成・周知活動について」、意見等あるだろうか。

事務局 ・2行目辺りの文章が前後でおかしくなっているので修正していただきたい。「研修委員や研修講師派遣等の協力を行いました。」で一度切り、「大山崎町の私立保育園、」と繋げてもらった方が良いと思う。

副委員長 ・「(2) 医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者のフォローアップ交流会について」はどうだろうか。

委員 ・内容は良いが、真ん中辺りの「地域で暮らすこと」についてお話いただきました。」の後の文章との繋がりがおかしいように思う。読んでいると文章が繋がっていないように思う。

副委員長 ・文章が長くなり話が繋がっていないので、「自分らしく自分の人生を生きる為、したい暮らしを実現する為に何が必要かを一緒に考えてほしい。」「地域の中で本人のことを思い、気持ちを汲んでくれる人がたくさんいてくれることを望んでいる」と、鍵括弧を2つにさせていただく。

・次に「(3) 施設における口腔管理について」はどうだろうか。

委員 ・これで大丈夫だと思う。

副委員長 ・「(4) 医療的ケア児・者の生活を支えるために必要なことについて」、意見等あるだろうか。

委員 ・「3 今年度の取組状況」に戻るが、ここでは委員会の開催状況が書かれている。他の部会との兼ね合いもあるが、「あかりちゃん祭り」や「乙訓在宅療養児支援体制検討会」など、関連項目等でこの委員会から委員が参加していることを明記しておくとうわかりやすいように思った。

事務局 ・他の部会等でも統一した方が良いのではという意見が出ているところがある。併せて運営委員会で確認させていただく。

副委員長 ・「5 次年度の課題と方針」に移らせていただく。意見等あるだろうか。特に意見はないようだが、後から何か気づいたことがあればお知らせいただきたい。

・今日いただいた意見等修正したものをメールで送らせていただく。確認いただければと思う。

### 3 その他

副委員長 ・前回、卒業する医療的ケアの子どもの生活介護の行き先が偏っているという話があった。児童発達支援プロジェクトでの児童発達支援事業所、放課後等デイサービスとの懇談会でも重度の方の行き先が偏っていることが話題にあがっていた。運営委員会で話をしていきながら、「医療的ケア」委員会の中で取り組めることがあれば話をさせていただく形になるかと思う。その時はよろしくお願ひしたい。